

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201587		
法人名	有限会社 ハートフル長崎		
事業所名	グループホーム団欒		
所在地	長崎県佐世保市梅田町110-12		
自己評価作成日	令和3年8月5日	評価結果市町村受理日	令和3年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和3年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様にとって心地よい居場所、役割のある暮らしの提供、入居者様の気持ちに寄り添った関わり方、言葉掛けを心掛けている。・一人ひとりの生活歴、性格、趣味、価値観などを尊重しニーズに合わせたサービス提供を行っている。・入居者様の心理的、身体的変化を小さな内から気付き力。それに応じた迅速で適切な対応が出来るような知識・技術の向上を目指している。・入居者様の残存機能を生かし、いつまでも穏やかに活気のある日常を送れるような手助けを行っている。・地域との交流、連携を積極的に行い、地域の一員として根付くことを目標としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは佐世保市の中心部より車で数分の小高い場所に位置している。コロナ禍以前は近隣の保育園児と交流したり、ホームで「団欒カフェ」の開催や地域の夏祭りに参加するなどのほか、長崎国際大学から実習生を受入れたり、図書ボランティアグループによる読み聞かせのボランティアを受入れるなど、積極的に地域と交流を図っており、地域住民にも広く認知されている。家族からの信頼も厚く、職員同士の信頼関係も良好で、より良い入居者支援にも繋がっており、アットホームな環境を整備している。毎月発行する「団欒新聞」には入居者が書道を行う様子やおやつ会の様子など写真を載せて伝えており、家族の安心に繋がっている。関連の法人には小規模特別養護老人ホーム、小規模多機能ホーム、住宅型有料老人ホーム等があり、緊急時の連携、各種イベント等での協力体制を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「もっと優しく、もっと温かく」当事業所の理念「優しく思いありのあるチームケア」を職員一同が共有し、日々の業務に繋げ、介護の質の向上を目指している。	理念は毎日申送り時に唱和している。職員人事考課の一環として、理念をベースにして半年毎に個人目標を掲げ、自己評価を行い、ホーム長経由で法人本部に提出し、実績を基に見直しを行い、職員へ再認識を図ることで更なる介護の質の向上を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナウィルス感染予防の為に毎年開催する地域保育園とのどんど焼きや地域の夏祭りは中止となり交流がほとんど出来なかった。しかし、町内館長や民生員と手紙やハガキで連絡を取り合ったり、市民大清掃のお手伝いをするなど出来る限りの交流を行った。	コロナ禍以前は、図書ボランティアの読み聞かせや、長崎国際大学の実習生受入れ等交流していたが、現在は感染対策の為、地域行事の参加は自粛している。尚、民生委員との手紙のやり取りや地域の清掃活動への職員参加などできる範囲で継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルス感染予防の為に地域の方々との交流はほとんど行うことがなかった。しかし、運営推進会議資料の中に当ホームの新聞を同封し少しでも認知症の人の日常を地域の方へお伝えする等の取り組みを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者状況、行事、研修、アクシデント等の報告を今年にはコロナウィルス感染予防の為に書面で行った。各推進員より貴重なご意見を郵送で返信して頂き、改善点を見出しサービス向上に活かしている。	コロナ禍により運営推進会議は書面会議に変更し、案内時に意見書、返信用封筒を同封している。ホームの現状報告及び別紙として身体拘束適正化委員会での報告等を記載し、当該議事録を入居者家族や推進会議構成員へ郵送している。会議構成員よりコロナ禍での対応について意見を得るなど運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に生活福祉課、長寿社会課の担当の方とは連絡を取り、疑問や質問等に対し細やかなアドバイスを頂いている。介護保険申請や事故報告等の手続きも円滑に行えるよう協力関係を築いている。	佐世保市の担当者とは各種書類の提出以外で出向くことは自粛し、できる限りメール等を活用している。また地域包括支援センターとの空室の問合せにも協力している。行政の委託事業としてグループホーム連絡協議会を通じ、認知症に関するポスター配布の依頼を受ける等連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在の身体拘束状況は「玄関の施錠」をご家族の同意の上で行っている。2年前に行っていた4点柵(ご家族の希望にて)対応は現在は廃止し行っていない。尚、「玄関の施錠」に関しては玄関掃除の際など時間を決めた玄関の開放を行う取り組みを実施している。	法人グループの事業所が集まり、身体拘束委員会に職員が参加すると共に当ホーム独自の委員会も2か月毎に開催し意識を高めている。身体拘束に関するマニュアルも作成し、DVDを活用しながら職員研修を年に2回実施している。職員に対し本部が無記名によるストレスの自己チェック調査を行い、職員のストレス対策に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修は定期的に行っており職員の意識向上に努めている。また、法人全体で定期的に虐待に関する自己チェックリストを用いてチェック後、集計し正しい虐待防止の知識を職員一人ひとりに把握してもらい虐待が見過ごされる事が無いよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格取得や研修などで学ぶ機会を設けている。制度が必要になった入居者様には円滑に活用できるようなお手伝いをしている。(昨年よりお一人成年後見人制度を開始された際にお手伝いをした)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の面談や契約、解約また改定等の際には出来る限りわかりやすい言葉での説明を心掛け理解・納得を図っている。また、ご家族や、入居者の不安や疑問に対しても丁寧な対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話、運営推進会議資料による近況報告、家族会(今年はコロナウイルス感染予防の為に書面開催)での意見交換を行い、意見、要望を気兼ねなく発信出来る環境を整えている。尚、玄関に意見箱を設置し貴重な意見を運営に反映させている。	毎年、敬老会を兼ねた家族会を行っていたが、現在は書面での意見交換となっている。家族に対する電話での相談は継続している。食事に関しご飯が入らない時は好きな物を買ってあげて欲しいとの家族の要望を聴きカップラーメンを提供する等、可能な限り要望を反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日々の会話や個人面談及び会議等で職員の運営に関する意見・提案に耳を傾け、対応可能な内容については可能限り反映できるよう努めている。	ホーム長が日常の入居者支援業務にも携わっており、随時職員からの意見を聴く体制を整えている。感染症対策として、職員より入居者の歯ブラシやコップ等が接触しないよう収納棚を区分けできるよう工夫する等の意見を反映し運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者及び職員の資格取得、研修参加状況等を人事考課表を用いて現状を把握し個々がやりがいや向上心を持って働ける職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は人事考課表やホーム会議に定期的に参加し管理者や職員のケアの実際を把握し、法人内外の研修する機会を設け、介護知識・技術のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会議・研修やその他の外部研修などで同業者との交流の場を設け、お互いの近況報告を行いサービス向上に努めている。また、交流会や新年会で宴会を開催し、より一層の交流やネットワーク作りの場となっている。(今年はいずれにもコロナウィルス感染予防の為に開催されず)		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は新しい環境で不安や葛藤を感じている場合が多い為、コミュニケーションを図り、会話・行動・表情などから入居者様の思いを引き出し安心して暮らせる環境、関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談や新規契約の際には出来る限り解りやすく丁寧な説明を心掛けている。また家族等の不安や要望等を気兼ねなく発信出来る関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供書やご家族からの情報、入居者との会話・表情・行動等より「その時」の想いに気付き出来る限り思いに寄り添ったサービス提供が出来るよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に役割のある心地良い居場所の提供を心掛け、生活リハビリ等で出来ることはご自分で行って頂き、活気のある暮らしの継続をお手伝いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や定期的な連絡で近況報告を行い家族との意見交換を心掛けている。またホーム行事参加や外出・外食・自宅への帰が自由に行えるお手伝いをしている。(今年はコロナウィルス感染予防の為にいずれも中止)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の知人や馴染みの方との面会が気兼ねなく行える環境提供している。定期的な地域集会を望む入居者の希望に沿った対応を行っている。(今年はコロナウィルス感染予防の為にいずれも中止)	コロナ禍以前は入居者の要望を受け町内カラオケ大会へ参加したり、カトリック信者の教会訪問を支援するなど本人のこれまでの馴染みの関係を支援する取り組みができていた。現在は気分転換を兼ねて日替わりのレクリエーション活動として脳トレ、百歳体操、各種ゲームを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、テーブル配置やレクリエーション参加を心掛けている。また他入居者と馴染めない時には職員が間に入りきっかけ作りのし孤立しないような関わりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一度、契約が終了しても希望があれば新たに入居申し込みをして頂き、当ホーム及び系列の施設への入居相談や支援を積極的に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報提供書やご家族からの情報、入居者との会話の中から希望・意向を把握し支援に努めている。また、認知症などにより意思疎通が困難な方には表情や行動より思いを汲み取るよう努めている。	入居者や家族の意向はその都度送りノート、個人のケース記録に残し、職員間で共有している。記録の記入については職員の思い込みを避ける為、「」(カギカッコ)を使い、発した言葉をそのまま記載するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書やご家族、入居者との会話の中から生活歴・馴染みの暮らし方・生活環境を把握し、これまでの暮らしの延長になるような環境を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりがご自身のペースで好きな場所で心地よい時間を送ることが出来るようお手伝いをしている。尚、心身状態を把握する為に定期的な訪室を行い状態変化に早期に気づく事を心掛けている。また、朝礼や送りノートを活用し職員全体での情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、ご家族と話し合う時間を設け(遠方の方は電話)それぞれのニーズに合わせた介護計画書を作成しプランに基づきケアの統一を行っている。また担当職員を中心にモニタリングを行いカンファレンス会議で意見交換を行い介護計画書に反映させている。	日頃介護に携わっている職員の意見、本人、家族の希望を基に、ケアマネージャーが同席し担当者会議でのモニタリング、カンファレンス会議での意見交換を図り、介護計画に反映している。介護計画の見直しは6か月毎に行っている。介護計画の内容はケアメモに記載し、日常の支援に活かしている。家族の面会時等にケアマネージャーが介護計画を説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は実際に携わった職員が詳細に記載することを徹底し職員間で情報共有し、ケアの統一に繋げている。特に入居者の実際の発語や心身状況の変化を詳細に記入し、実践や介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族から要望があればその時々ニーズに柔軟に対応している。(例えば、お孫様の結婚式に出席させたいと家族よりお願いされた際には職員が現地まで送迎し会場内ではトイレ介助などのお手伝いを行った。)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、当ホームの行事に地域の方を招待し交流を深めている(今年はコロナウィルス感染予防の為に中止)今年は今後は近隣の幼稚園へ絵葉書を郵送し交流する場を設けた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には特定の主治医による往診で対応しているが入居者、ご家族が希望するのであれば、従来からのかかりつけ医への受診対応を支援している。	月2回、入居者毎にかかりつけ医による訪問診療を実施している。歯科は2週間毎に口腔ケアを兼ねて訪問している。他科への受診は原則として家族による受診対応としているが、状況に応じて職員による同行も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は入居者の心身の変化に気付く事を心掛け、情報をとらえた際には迅速に看護師や訪問看護師等に報告・相談し、支持を貰い必要であれば受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は小まめな面会を行い、状態把握を行なっている。また馴染みの職員が面会することで安心して治療に専念できるようような関わりを心掛けている。また病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時契約の際に終末期や看取りのあり方について話し合い同意を取っているが、実際にその時が訪れ、入居者・ご家族の心境の変化が生じた場合は改めて方針の変更を行った上で共にチームで支援出来るよう取り組んでいる。	ホームでは重度化した場合の対応に関する指針及び看取りの同意書を準備している。終末期にはかかりつけ医による家族への説明と同意を得、医師との連携を密にし支援している。終末期を迎えチームでの看取り支援や職員の不安の解消の為、看取りに関する研修を定期的実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、初期対応が迅速・冷静・適格に行えるよう心掛けている。緊急時の対応のイメージトレーニングも各々で行っている。また緊急時の応急処置や人命救助等の研修参加を行い、実践力を身につけている。(今年はコロナウイルス感染予防の為にDVDと使用し内部研修を行う)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回、消防避難訓練を実施し避難方法を職員が身に着けるよ努めている。今年はコロナウイルス感染予防の為に消防署の立会いは中止になりましたが消化設備業者の方が立ち会われ指導を受けるかたが出来た。また、コンセントの定期的な掃除や漏電防止器具を設置し、火災防止対策を行っている。	直近では令和3年5月26日、昼間想定避難訓練を消防設備点検業者の立会いのもとで実施している。近隣住民に消防避難訓練への参加を促しているが実現には至っていない。自然災害については大雨を想定した勉強会を実施しているが訓練実施は今後の課題である。職員は水消火器を使用した訓練を経験している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、特に排泄・入浴・更衣介助の際にはプライバシーに留意した言葉掛けや対応を行っている。また、パーソナルスペースを保ち、不快感のない、節度を持った関わりを心掛けている。	職員は居室への入室時には必ずノックするよう配慮しているが、声かけをせず何気なく入室する場面も見受けられる。トイレ誘導時等では周囲の入居者に気付かれないよう耳元で声をかけるなど配慮している。	接遇マナー研修は新人研修の機会やホームの内部研修で実施されているが、職員意識の徹底の為に繰り返し研修を受講できるよう検討することが望ましい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	目線を合わせて傾聴する事を心掛け、思いや希望を表すことが出来る関係性を保っている。また、意思疎通が困難な方でも表情や行動等より思いを汲み取り一人ひとりが自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、可能な限り希望に沿った支援を心掛けている。例えばレクリエーションの時間の声掛けを断られても無理には誘わず、各々が好きな時間を過ごせるような対応を行っている。職員は自身の業務よりも入居者の思いを優先した支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台にクシや鏡を準備し身だしなみを整えて頂いたり、スキンケアや髭剃り・爪切り・耳掃除などの声掛けやお手伝いを行っている。また、希望があれば好みのスキンケア用品やおしゃれ着等の購入の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やおかずの注ぎ分け・下膳・洗浄など好みに応じて行って頂き、一人ひとりが役割のあるくらしが出来るような支援を行っている。	調理は1階の専門職員がメニューを決め、作成している。入居者が食器洗いや下膳等、残存応力を活かしてできる事を職員と一緒にやっている。希望によりデリバリーでピザパーティーを行ったり、誕生日、敬老会、クリスマス等の行事食を提供し、入居者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態や体調を把握し、食事内容・形態を考慮し栄養バランスの取れた食事の提供を行っている。食事・水分摂取量の管理も行い、水分に関しては1日1,200ml摂取することを目指している。また、水分摂取が苦手な方には好みの飲み物を準備する等の支援も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや夜間の義歯消毒の声掛けやお手伝いを行っている。夜間帯には歯ブラシ、コップの洗浄を行い清潔保持を心掛けている。また、歯科による口腔ケア、治療を行い口腔環境を整えている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、各々に応じたトイレの声掛け誘導を行い、出来るだけ失禁なくトイレでの排泄を行って頂くことで自立に向けた支援に繋げている。	排泄チェック表を活用して入居者の状態を把握し、その方に応じた声かけにより適宜排泄を誘導し、現状維持に努め、トイレでの排泄に取り組んでいる。適正なパッド、リハビリパンツの使用量等についても職員間で検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分補給である1200mlの声掛けをを促し、野菜を中心としたバランスの良い食事提供を行っている。毎食前の体操や機能訓練等の運動も取り入れ便秘にならない体調管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は午前中と決まっているが一人ひとりの希望に合わせて順番や担当職員を交代する等の対応を柔軟に行っている。また入浴を拒まれる方には無理な声掛けはせず出来る限り思いに添った支援を行っている。	1日に3名、3日に1回の入浴である。全入居者が浴槽に入れており、看取り支援の入居者についても主治医のアドバイスを得て小さな浴槽を使用し湯船に浸かっている。現在使用する入居者はいないが簡易型のリフト浴も準備し重度化した方に対応できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床に入眠出来ず起きて来られた場合でも静かに寄り添い会話をし、安心して清潔な寝具で気持ちよく眠れるよう支援している。日中も一人ひとりの生活習慣に合わせ自室で休まれたりソファで横になられたりと自由に過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が新しく処方された際には担当職員はドクターより目的や副作用、用法・用量等の説明を受けケース記録及び申し送りノートに記載し、職員全体で情報を共有している。また服用後の症状の変化の様子観察しドクターや看護師への報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体でのレクリエーション活動の他に個別のレクリエーション活動の場を設け一人ひとりの好みに合わせた活動を行うことで気分転換を行い、役割のある暮らし支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナウィルス感染予防の為に花見や買い物・外食などの外出は全面中止でしたが数人数でのドライブを数回行うことが出来た。しかし、家族や地域の関わりは感染防止の為に全く行われていないのでストレスを感じている入居者も見受けられる。	コロナ禍以前は買物、ドライブ等頻繁に外出する機会を設けていたが、現在は外出を自粛している。入居者の気分転換を目的として、脳トレ、百歳体操等を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外へ買物にお連れした際には入居者一人ひとりが現金での支払いを行えるよう支援をしている。また、定期的にお菓子の訪問販売を呼んでおり、入居者は買物や支払いを楽しまれている。(今年はコロナウィルス感染予防の為に行われず)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に今年はコロナウィルス感染予防の為に面会に制限があった為、家族や知人への電話を頻回に利用した。(かける時間帯などはこちらで管理している)また、手紙や絵葉書作りをレクリエーションに取り入れ各々が家族や知人へ送ることが出来、楽しまれた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔に保ち、定期的な換気、室内の温度調節を行っている(加湿器・除湿器も使用している)また、季節に合わせた貼り絵をレクリエーションで作成し毎月、リビングの壁紙を交換し季節を感じて貰い、居心地よく過ごせるよう工夫している。	職員と入居者が一緒に作成した季節毎の絵や団欒新聞等を共用空間の壁に貼っている。昔学生寮であった当ホームは通路の幅が広く、車椅子での利用も安心である。感染対策として手摺や取っ手などの手に触れる部分は次亜塩素酸水を使用して清掃し清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階には共同で過ごすリビングの他に個別で過ごすことができる別のリビングがあり、気の合った入居者同士がくつろがれている。しかし、建設上1階には共同リビングしかない為、一人になりたい際は居室にて思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や壁掛け時計など入居者の好みのものを持ち込まれている。また、仏壇を置かれている方も多く、お供えなどのお手伝いを行い、ご自宅と変わらない暮らしを継続し居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には家族写真、仏壇、テレビ等、入居者の希望の物を持ち込まれている。居室への持ち込みについては火気、刃物、食品類を除き制限はない。毎日遅出の職員がモップ掛け、水拭きによる清掃を行っており清潔な居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、居室入り口等には入居者がわかりやすいよう大きく丁寧な文字の看板を掲示し安全で自立した生活が送れるよう工夫している。また、同線への手すりを設置、廊下・リビング・居室等は段差を無くし転倒しない様、安全を配慮している。		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「もっと優しく、もっと温かく」当事業所の理念「優しく思いのあるチームケア」を職員一同が共有し、日々の業務に繋げ、介護の質の向上を目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナウィルス感染予防の為に毎年開催する地域保育園とのどんど焼きや地域の夏祭りは中止となり交流がほとんど出来なかった。しかし、町内館長や民生員と手紙やハガキで連絡を取り合ったり、市民大清掃のお手伝いをするなど出来る限りの交流を行った。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルス感染予防の為に地域の方々との交流はほとんど行うことがなかった。しかし、運営推進会議資料の中に当ホームの新聞を同封し少しでも認知症の人の日常を地域の方へお伝えする等の取り組みを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者状況、行事、研修、アクシデント等の報告を今年はコロナウィルス感染予防の為に書面で行った。各推進員より貴重なご意見を郵送で返信して頂き、改善点を見出しサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特に生活福祉課、長寿社会課の担当の方とは連絡を取り、疑問や質問等に対し細やかなアドバイスを頂いている。介護保険申請や事故報告等の手続きも円滑に行えるよう協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在の身体拘束状況は「玄関の施錠」をご家族の同意の上で行っている。2年前に行っていた4点柵(ご家族の希望にて)対応は現在は廃止し行っていない。尚、「玄関の施錠」に関しては玄関掃除の際など時間を決めた玄関の開放を行う取り組みを実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修は定期的に行っており職員の意識向上に努めている。また、法人全体で定期的に虐待に関する自己チェックリストを用いてチェック後、集計し正しい虐待防止の知識を職員一人ひとりに把握してもらい虐待が見過ごされる事が無いよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格取得や研修などで学ぶ機会を設けている。制度が必要になった入居者様には円滑に活用できるようなお手伝いをしている。(昨年よりお一人成年後見人制度を開始された際にお手伝いをした)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の面談や契約、解約また改定等の際には出来る限りわかりやすい言葉での説明を心掛け理解・納得を図っている。また、ご家族や、入居者の不安や疑問に対しても丁寧な対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話、運営推進会議資料による近況報告、家族会(今年はコロナウイルス感染予防の為に書面開催)での意見交換を行い、意見、要望を気兼ねなく発信出来る環境を整えている。尚、玄関に意見箱を設置し貴重な意見を運営に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日々の会話や個人面談及び会議等で職員の運営に関する意見・提案に耳を傾け、対応可能な内容については可能限り反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者及び職員の資格取得、研修参加状況等を人事考課表を用いて現状を把握し個々がやりがいや向上心を持って働ける職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は人事考課表やホーム会議に定期的に参加し管理者や職員のケアの実際を把握し、法人内外の研修する機会を設け、介護知識・技術のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会議・研修やその他の外部研修などで同業者との交流の場を設け、お互いの近況報告を行いサービス向上に努めている。また、交流会や新年会で宴会を開催し、より一層の交流やネットワーク作りの場となっている。(今年はいずれにもコロナウィルス感染予防の為に開催されず)		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は新しい環境で不安や葛藤を感じている場合が多い為、コミュニケーションを図り、会話・行動・表情などから入居者様の思いを引き出し安心して暮らせる環境、関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談や新規契約の際には出来る限り解りやすく丁寧な説明を心掛けている。また家族等の不安や要望等を気兼ねなく発信出来る関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供書やご家族からの情報、入居者との会話・表情・行動等より「その時」の想いに気付き出来る限り思いに寄り添ったサービス提供が出来るよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に役割のある心地良い居場所の提供を心掛け、生活リハビリ等で出来ることはご自分で行って頂き、活気のある暮らしの継続をお手伝いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や定期的な連絡で近況報告を行い家族との意見交換を心掛けている。またホーム行事参加や外出・外食・自宅への帰が自由に行えるお手伝いをしている。(今年はコロナウィルス感染予防の為にいずれも中止)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の知人や馴染みの方との面会が気兼ねなく行える環境提供している。定期的な地域集会を望む入居者の希望に沿った対応を行っている。(今年はコロナウィルス感染予防の為にいずれも中止)		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、テーブル配置やレクリエーション参加を心掛けている。また他入居者と馴染めない時には職員が間に入りきっかけ作りのし孤立しないような関わりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一度、契約が終了しても希望があれば新たに入居申し込みをして頂き、当ホーム及び系列の施設への入居相談や支援を積極的に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報提供書やご家族からの情報、入居者との会話の中から希望・意向を把握し支援に努めている。また、認知症などにより意思疎通が困難な方には表情や行動より思いを汲み取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書やご家族、入居者との会話の中から生活歴・馴染みの暮らし方・生活環境を把握し、これまでの暮らしの延長になるような環境を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりがご自身のペースで好きな場所で心地よい時間を送ることが出来るようお手伝いをしている。尚、心身状態を把握する為に定期的な訪室を行い状態変化に早期に気づく事を心掛けている。また、朝礼や申し送りノートを活用し職員全体での情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、ご家族と話し合う時間を設け(遠方の方は電話)それぞれのニーズに合わせた介護計画書を作成しプランに基づきケアの統一を行っている。また担当職員を中心にモニタリングを行いカンファレンス会議で意見交換を行い介護計画書に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は実際に携わった職員が詳細に記載することを徹底し職員間で情報共有し、ケアの統一に繋げている。特に入居者の実際の発語や心身状況の変化を詳細に記入し、実践や介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族から要望があればその時々ニーズに柔軟に対応している。(例えば、お孫様の結婚式に出席させたいと家族よりお願いされた際には職員が現地まで送迎し会場内ではトイレ介助などのお手伝いを行った。)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、当ホームの行事に地域の方を招待し交流を深めている(今年はコロナウィルス感染予防の為に中止)今年は今後は近隣の幼稚園へ絵葉書を郵送し交流する場を設けた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には特定の主治医による往診で対応しているが入居者、ご家族が希望するのであれば、従来からのかかりつけ医への受診対応を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は入居者の心身の変化に気付く事を心掛け、情報をとらえた際には迅速に看護師や訪問看護師等に報告・相談し、支持を貰い必要であれば受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は小まめな面会を行い、状態把握を行なっている。また馴染みの職員が面会することで安心して治療に専念できるような関わりを心掛けている。また病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時契約の際に終末期や看取りのあり方について話し合い同意を取っているが、実際にその時が訪れ、入居者・ご家族の心境の変化が生じた場合は改めて方針の変更を行った上で共にチームで支援出来るよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、初期対応が迅速・冷静・適格に行えるよう心掛けている。緊急時の対応のイメージトレーニングも各々で行っている。また緊急時の応急処置や人命救助等の研修参加を行い、実践力を身につけている。(今年はコロナウイルス感染予防の為にDVDと使用し内部研修を行う)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回、消防避難訓練を実施し避難方法を職員が身に付けるよ努めている。今年はコロナウイルス感染予防の為に消防署の立会いは中止になりましたが消化設備業者の方が立ち会われ指導を受けるかが出来た。また、コンセントの定期的な掃除や漏電防止器具を設置し、火災防止対策を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、特に排泄・入浴・更衣介助の際にはプライバシーに留意した言葉掛けや対応を行っている。また、パーソナルスペースを保ち、不快感のない、節度を持った関わりを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	目線を合わせて傾聴する事を心掛け、思いや希望を表すことが出来る関係性を保っている。また、意思疎通が困難な方でも表情や行動等より思いを汲み取り一人ひとりが自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、可能な限り希望に沿った支援を心掛けている。例えばレクリエーションの時間の声掛けを断られても無理には誘わず、各々が好きな時間を過ごせるような対応を行っている。職員は自身の業務よりも入居者の思いを優先した支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台にクシや鏡を準備し身だしなみを整えて頂いたり、スキンケアや髭剃り・爪切り・耳掃除などの声掛けやお手伝いを行っている。また、希望があれば好みのスキンケア用品やおしゃれ着等の購入の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やおかずの注ぎ分け・下膳・洗浄など好みに応じて行って頂き、一人ひとりが役割のあるくらしが出来るような支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態や体調を把握し、食事内容・形態を考慮し栄養バランスの取れた食事の提供を行っている。食事・水分摂取量の管理も行い、水分に関しては1日1,200ml摂取することを目指している。また、水分摂取が苦手な方には好みの飲み物を準備する等の支援も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや夜間の義歯消毒の声掛けやお手伝いを行っている。夜間帯には歯ブラシ、コップの洗浄を行い清潔保持を心掛けている。また、歯科による口腔ケア、治療を行い口腔環境を整えている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、各々に応じたトイレの声掛け誘導を行い、出来るだけ失禁なくトイレでの排泄を行って頂くことで自立に向けた支援に繋げている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分補給である1200mlの声掛けをを促し、野菜を中心としたバランスの良い食事提供を行っている。毎食前の体操や機能訓練等の運動も取り入れ便秘にならない体調管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は午前中と決まっているが一人ひとりの希望に合わせて順番や担当職員を交代する等の対応を柔軟に行っている。また入浴を拒まれる方には無理な声掛けはせず出来る限り思いに添った支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床に入眠出来ず起きて来られた場合でも静かに寄り添い会話をし、安心して清潔な寝具で気持ちよく眠れるよう支援している。日中も一人ひとりの生活習慣に合わせ自室で休まれたりソファで横になられたりと自由に過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が新しく処方された際には担当職員はドクターより目的や副作用、用法・用量等の説明を受けケース記録及び申し送りノートに記載し、職員全体で情報を共有している。また服用後の症状の変化の様子観察しドクターや看護師への報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体でのレクリエーション活動の他に個別のレクリエーション活動の場を設け一人ひとりの好みに合わせた活動を行うことで気分転換を行い、役割のある暮らし支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナウイルス感染予防の為に花見や買い物・外食などの外出は全面中止でしたが数人数でのドライブを数回行うことが出来た。しかし、家族や地域の関わりは感染防止の為に全く行われていないのでストレスを感じている入居者も見受けられる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外へ買い物にお連れした際には入居者一人ひとりが現金での支払いを行えるよう支援をしている。また、定期的にお菓子の訪問販売を呼んでおり、入居者は買物や支払いを楽しまれている。(今年はコロナウイルス感染予防の為に行われず)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に今年はコロナウィルス感染予防の為に面会に制限があった為、家族や知人への電話を頻回に利用した。(かける時間帯などはこちらで管理している)また、手紙や絵葉書作りをレクリエーションに取り入れ各々が家族や知人へ送ることが出来、楽しまれた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔に保ち、定期的な換気、室内の温度調節を行っている(加湿器・除湿器も使用している)また、季節に合わせた貼り絵をレクリエーションで作成し毎月、リビングの壁紙を交換し季節を感じて貰い、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階には共同で過ごすリビングの他に個別で過ごすことが出来る別のリビングがあり、気の合った入居者同士がくつろがれている。しかし、建設上1階には共同リビングしかない為、一人になりたい際は居室にて思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や壁掛け時計など入居者の好みのものを持ち込まれている。また、仏壇を置かれている方も多く、お供えなどのお手伝いを行い、ご自宅と変わらない暮らしを継続し居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、居室入り口等には入居者がわかりやすいよう大きく丁寧な文字の看板を掲示し安全で自立した生活が送れるよう工夫している。また、同線への手すりを設置、廊下・リビング・居室等は段差を無くし転倒しない様、安全を配慮している。		